

### 正会員数が10店増加

#### 広島県代協が第7回総会

広島県代協(吉山忠秀会長)は5月20日午後1時半から広島市中区の損保ジャパン日本興亜広島支店4階会議室で第7回(第8期)総会を開催した。

物故会員への黙祷と倫理綱領を読み上げたあと、吉山会長が挨拶に立った。まず、昨年8月の土砂災害に触れ、「目撃者からお客様のことを把握している代理店だからこそ迅速な対応ができた。昨今は自然災害の多発や巨大地震の発生がいわれおり、防災・減災に向け、保険の仕事に携わる我々の存在意義が高まる」と述べた。また、正会員数が今年3月末現在で昨年度比10店増加の236店となったが、専業代理店における組織率は35・6%で、27年度も引き続き会員増強(10店増)を柱として掲げているとした。さらに損害保険トータルプランナーに向けての損害協会のホームページ「損害保険トータルプランナーがいる代理店」への情報登録や、

業法改正に向けての日本代協本部の情報提供の活用などを呼びかけた。

### トップクラスの組織率

#### 岡山県代協が総会と暴追協

岡山県代協(谷川明義会長)は5月21日、岡山市の岡山国際交流センターで第53回通常総会ならびに第34回暴力追放大会を開催した。

総会の開催に際し、冒頭、谷川会長があいさつに立った。現在、岡山県代協は組織率ならびに損害保険トータルプランナーのいる代理店数においても全国の代協のなかでもトップクラスの数となっているが、まずこの

とに触れ、会員各位、過去の理事への謝意を表した後、「いよいよ来年の5月には改正保険業法が施行される。岡山県代協はこの高い組織率をもとに、今回の改正を前向きにとらえ、消費者が損害保険に加入するためのチャネルのなかで、代協会

員を通じて保険契約をす

ち、新たな募集態勢の構築に向けた取組み、自然災害への取組みについて話したあと、「昨年の土砂災害を体験し、改めて私たちに何ができるのか痛感した。また、私たちの仕事が少ないかもしれないが、社会に役立っていることを感じた」と述べた。

総会では、平成26年度(第7期)事業報告承認、平成27年度(第8期)事業計画承認など5つの議案について審議し可決承

認された。

記念講演では、保険毎日本新聞社の森隆氏が「東日本大震災の業界対応と石碑の教訓」について話をした。取材体験をもとに、被災地での代理店や保険会社の取組み、契約者の声などを紹介し、改めて東日本大震災の被害の状況のすごさを語った。石碑の教訓では津波や地震などに遭った地域での災害に対する教訓を書いた石碑を紹介した。

入れているが、25年度においても約299万円の手数料収入をあげ、安定した代協活動の原資となっている。

この後、三浦房紀山口大学副学長が「岡山県における地震災害の可能性」というテーマで講演した。

引き続き暴力追放大会に移った。昭和57年、全国に先駆けて発足した岡山県保険代理業協会暴力

追放協議会は62年に県下警察署単位に支部を組織し、あらゆる暴力を排除し、損害保険事業の健全な発展を図るために積極的な活動を展開している。例年、同大会には岡山県警察本部、岡山県暴力追放運動推進センター、岡山県弁護士会などから多数の関係者が参加しているが、34回目となった今回も多くの参加者の出席のもと、開催された。

大会では暴力追放に向けて今後も関係団体、関係者が一丸となって活動することを再確認するとともに、「最近の暴力団事情について」(岡山県警察本部刑事部組織犯罪対策第二課三村淳一暴力団排除対策官)、「交通事故・保険金詐欺の現状について」(同交通指導課植野茂樹課長補佐)の講演があった。

なお、岡山県代協の昨年度末会員数は345名となっている。



総会で挨拶する吉山会長



総会の模様